平成24年度　成績概要書

研究課題コード：4104-426500（道受託研究）

１．研究成果

１）研究成果名：平成 24 年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫

（予算課題名：病害虫発生予察調査）

２）キーワード：病害虫発生予察、注意すべき病害虫、新発生病害虫

３）成果の要約：平成 24 年度に実施した病害虫発生予察調査から、多発傾向にあった病害虫として 10 病害虫を示した。また、平成 25 度に特に注意すべき病害虫として 3 病害虫を示し注意を喚起した。さらに、平成 24 年度に新たに発生を認めた病害虫として 25 病害虫（病害 18、虫害 7）を示した。

２．研究機関名

１）担当機関・部・グループ・担当者名：中央農試・病虫部・予察診断Ｇ・清水基滋、
中央農試・病虫部・クリーン病害虫Ｇ、上川農試・研究部・生産環境Ｇ、
道南農試・研究部・生産環境Ｇ、十勝農試・研究部・生産環境Ｇ、
北見農試・研究部・生産環境Ｇ、花･野菜技術センター・研究部・生産環境Ｇ

２）共同研究機関（協力機関）：北海道農政部技術普及課、北海道農業研究センター、
北海道病害虫防除所、（全道農業改良普及センター）

３．研究期間：平成 24 年度　（2012 年度）

４．研究概要

１）研究の背景

病害虫の発生はその年の発生状況や気象経過のほかに、前年の発生状況の影響を受けるため、効率的な病害虫防除を実施するためにはそれら踏まえた全道的な情報が求められる。また、道内で未確認の病害虫が突発的に発生するため、対応が求められる。

２）研究の目的

全道での病害虫発生状況を新発生病害虫も含めて記録し、これをもとに次年度に注意すべき病害虫を示して注意を喚起する。

５．研究方法

１）農作物有害動植物の発生状況

・ねらい　農作物有害動植物の発生状況を記録する

・試験項目等　18 作物･86 病害虫の発生状況を調査

２）突発および新発生病害虫の診断試験および調査

・ねらい　道内で新たに発生した病害虫を同定し記録する

・試験項目等　発生調査、再現試験、同定試験

６．研究の成果

１）平成 24 年にやや多～多発した病害虫

(1)水　　　稲：紋枯病、ばか苗病
(2)小　　　麦：雪腐病（秋まき小麦）
(3)大　　　豆：マメシンクイガ
(4)ばれいしょ：軟腐病、黒あし病
(5)て ん さ い：褐斑病
(6)ね　　　ぎ：ネギアザミウマ
(7)だ い こ ん：軟腐病
(8)は く さ い：軟腐病

２）平成 25 年度に特に注意を要する病害虫

(1)水稲の種子伝染性病害
(2)小豆のアズキゾウムシ
(3)野菜類および花き類のオオタバコガ

３）新たに発生を認めた病害虫

(1) とうもろこしの褐色腐敗病（新称）
Burkholderia gladioli

(2) ばれいしょの腰折症状（新症状）
Rhizoctonia solani AG-2-2 IV

(3) かんしょのエビガラスズメ（新寄主）
Agrius convolvuli

(4) かんしょのイモキバガ（新寄主）
Helcystogramma triannulellum

(5) てんさいの苗立枯病（病原の追加）
Pythium ultimum var. *ultimum*

(6) だいこんの腐敗病(新発生)
Pythium ultimum var. *ultimum*

(7) だいこんの白斑病(新発生)
Pseudocercosporella capsellae

(8) にんじんの黒あざ病(新称)
２核 *Rhizoctonia* AG-U

(9) にんじんの苗立枯病(新発生)
Rhizoctonia solani AG-1 IC

(10)はくさいの黄化モザイク病（新発生）
Turnip yellow mosaic virus

(11)こまつなのべと病（新発生）
Hyaloperonospora brassicae

(12)ブロッコリーの苗立枯病（新発生)
Rhizoctonia solani AG-2-1

(13)ほうれんそうのナスハモグリバエ(新寄主)
Liriomyza bryoniae

(14)ほうれんそうの立枯病(新発生)
Pythium ultimum var. *ultimum*

(15)リーキの葉枯病(新発生)
Stemphylium vesicarium

(16)トマト・ミニトマトのウロコタマバエの一種（新発生）
Lasioptera sp.

(17)トマト・ミニトマトのすすかび病（新発生）
Pseudocercospora fuligena

(18)かぼちゃのフザリウム果実腐敗病（新発生・病原追加）
Fusarium graminearum

(19)メロンの果実内腐敗病（新発生）
Pantoea ananatis

(20)ダリアのポテトスピンドルチューバーウイロイド感染確認（新発生）
Potato spindle tuber viroid

(21)しろたえぎくの灰色かび病（新称）
Botrytis cinerea

(22)かじいちごのヒラズハナアザミウマ（新寄主）
Flankliniella intonsa

(23)かじいちごのヒメコガネ、マメコガネ（新寄主）
Anomala rufocuprea 、*Popillia japonica*

(24)おうとうのウメシロカイガラムシ（新寄主）
Pseudaulacaspis prunicola

(25)アロニアの灰星病（新称）
Monilinia fructicola

７．成果の活用策

１）成果の活用面と留意点

ここに記載した病害虫について、特に今後の発生動向に注意する。

２）残された問題とその対応

(1) 各種病害虫の要防除水準の設定
(2) 簡易な調査方法とモニタリング手法の改善
(3) 発生変動要因の解明と発生予察法の改善
(4) 病害虫発生情報の収集および伝達の迅速化